

令和7年3月定例会一般質問

通告2

質問 投票支援カードの導入について

答弁 準備が整い次第実施します

11番 えぐち ともこ 江口 智子 議員

【質問：江口 智子 議員】

11番、江口智子でございます。通告に基づきまして、誰もが投票できる環境づくりについて、1件、2点にわたり質問いたします。

1点目は投票支援カードの導入についてであります。

昨年の町議会議員選挙の告示期間のことです。役場の入り口で高齢者に声をかけられました。期日前投票に来たものの、投票したい人の名前を忘れてしまったというのです。投票所の職員の方につないで、投票台で候補名を確認していただくよう案内をしてもらいましたが、これまでも投票所の台が硬くてうまく字が書けない、候補の名前が多過ぎて字が見えない、代筆はしてもらえるけれど、静かな場所で誰に投票するか聞かれたくないなど、投票時に困ったという声がしばしば聞かれます。

こうした高齢者や障害を抱えた方にとっても投票しやすい環境を整備すべく、全国的に投票支援カードやコミュニケーションボードの導入が進められています。道内では札幌市がダウンロード方式の選挙支援カード、岩見沢市などがコミュニケーションボードを活用し投票の支援を行っています。

当町の投票率は50%前後で推移していますが、その中でも中高年世代の投票率は高く、団塊の世代が後期高齢者となる本年以降、高齢者比率が高まることを考えると、投票の際の配慮が必要であると考えます。最近では投票はがきと一体型の投票支援カードもあるようですが、当町における投票支援の考えについて伺います。

【答弁：選管書記長】

江口議員御質問の誰もが投票できる環境づくりをの1点目、投票支援カードの導入についてにつきまして御答弁申し上げます。



高齢の方や障害をお持ちの方への投票所での支援につきましては、現状、事務従事者が御来場される方に困っている様子が見られるときには速やかに声かけを行うなど、必要に応じた支援を行っているところです。

具体的には拡大鏡や車椅子による支援、また代理投票が必要な場合には指さしでの意思確認を基本とした代理記入を行うほか、プライバシーに配慮した対応に努めているところでございます。

また、昨年8月の町議選以降、期日前投票所において、試行的に一部の記載台にマットを設置し、書きやすさに加え筆記音対策にも効果が得られたことから、今後拡充を計画するなど、投票環境の向上にも努めているところでございます。

こういった対応により、これまで大きなトラブルなく投票が行われてきたところですが、今後さらに高齢の方の御来場が多くなることを考慮いたしますと、議員御提案の投票支援カードやコミュニケーションボードの導入は、よりスムーズに支援につなげるための効果的な手段の一つと考えます。

今後、導入に向けて先進事例の研究を進め、準備が整い次第実施したいと考えております。

なお、その際の効果をしっかりと検証し、継続の必要性も含め、その先の方針を整理してまいりますので、御理解をお願いいたします。

質問 移動期日前投票所の実施について

答弁 投票環境の向上を目指し検討してまいります

11番 えぐち ともこ 江口 智子 議員

【質問：江口 智子 議員】

11番、江口智子でございます。2点目は移動期日前投票所の実施についてであります。

昨年の町議選と衆議院選挙では、東武サウスヒルズと計根別交流センターにおいて、期日前投票所が開設されました。東武サウスヒルズの投票所は店内にBGMが流れる中でリラックスして臨めたという声を聞いていますが、1問目でも触れました高齢者への投票環境整備として、新たに移動期日前投票所の実施をしてはいかがでしょうか。特に運転免許証を返納し、思うように外出の出来ない方にとって、投票所が近くまで来てくれることは利便性の向上につながります。

昨年の衆議院選挙では、近隣の標茶町をはじめ、白糠町、釧路町がワゴン車などを活用

し移動期日前投票所を開設しています。特に標茶町では従前より長距離移動が困難な方でも投票所を利用できるように、高齢者福祉施設前でも実施をしています。

こうした取組を研究し誰もが投票できる環境づくりを推進すべきではないでしょうか。

【答弁：選管書記長】

江口議員御質問の２点目、移動期日前投票所の実施についてにつきまして御答弁申し上げます。

期日前投票の実施に当たりましては、商業施設での実施や会場内の環境整備に努めるなど、投票率と有権者の利便性向上を目指して取り組んでおりますが、引き続きさらに工夫が必要と感じております。

議員御提案の移動期日前投票所につきましても、近隣自治体の取組や総務省が公表する全国の移動期日前投票場の取組事例集などの情報に注目しているところですが、その多くは投票区統廃合により投票所が廃止された地域の代替措置として行われております。

人口減少に伴い各投票区の有権者数が減少する中、投票立会人をはじめ事務従事者の確保の難しさや運営コストの増加といった課題により、全国的にも投票所数の縮小が進められております。

この問題は本町においても例外ではなく、期日前投票所の拡充を進める中で、新たな環境構築は難しい状況にあり、有権者の少ない投票区の在り方を含めた投票環境について総合的に見直す時期に来ていると認識しております。

そのためには慎重に調査研究を行い、移動期日前投票所の利点と現実的な課題を慎重に考慮し、バランスのとれた対応策を模索していく必要があると考えます。

地域の実情に即した効果的な方策により、高齢者をはじめとする全ての有権者の投票環境の向上を目指し、引き続き検討してまいりますので、御理解をお願いいたします。

【質問：江口 智子 議員】

はい。11番、江口智子でございます。再質問させていただきます。

投票所の統廃合をめぐることは、今後、より価値的に見直しを図られることを期待するものですが、高齢者をはじめとする全ての有権者の投票環境の向上を目指すとの答弁をいただきましたので、もう少し詳しく標茶町の事例に触れたいと思います。

福祉車両を活用した標茶町の移動期日前投票所は昨年の衆議院選の実績として、統廃合による郊外３か所で計19名、高齢者福祉施設前1か所で8名、さらに高校前では19名となりました。この高齢者福祉施設では投票の意思のある入所者及びヘルパーの利用があっ

たとのことで、ヘルパーが高齢者に付き添って投票所へ行く負担が軽減されると喜ばれているそうです。

介護人材の不足は当町も同じく直面する課題となっており、民間も含めて複数の施設を抱える当町でも検討する価値があると思います。また、高校では政治経済の授業の一環として主権者教育を取り入れ、候補者や政党のマニフェストを学習した後、生徒9名、教職員10名が投票を行ったとのことでした。

当町の投票環境を整えるに当たり、こうした事例を参考にすべきと考えますがいかがでしょうか。

【答弁：選管書記長】

再質問にお答えいたします。

本町の高校生及び介護施設職員への取組についてですけれども、はじめに高校生に対する期日前投票環境の充実といたしまして、農業高校生には計根別交流センターの開設時間を下校時間に合わせて設定いたしました。

また、中標津高校生には東武サウスヒルズの開設によりまして、立ち寄りやすい環境づくりも狙った取組としております。

現時点で介護施設職員を対象とした特別な取組は実施しておりませんが、介護職員の方々の利便性向上を図るためには幾つかの課題があると認識しております。特にシフト制の勤務体系をとる介護職員にとって、限られた開設時間でどれだけ多くの方が利用できるかが懸念されるところでございます。移動式でありましても人員確保と経費を伴いますので、効果効率の観点から慎重に判断する必要があると考えております。

期日前投票の利用者が増加傾向にあり、投票環境が変化していく中でございますので、本町の実情に合った効果的な方策を引き続き研究してまいりますので、御理解をお願いいたします。